

CUC 公開講座 2024【第8回】

「労働観の表象と変遷に関する比較歴史社会学的研究」

現代は非正規労働者が4割を越え、ジェンダーギャップは解消されず、正規／非正規労働者の格差が拡大し、過労による健康被害は後を絶たず、定職から離れて貧困に陥る層が拡大し、近い将来AIのさらなる進歩と普及によって消滅する職種も出てくると指摘される状況にあり、「労働観」が根本的に問い直されています。

では、このような現状を生きる私たちの労働観は、どのような歴史的・社会的・文化的な蓄積の上に形成されてきたのでしょうか。今回の講座では、既存の労働把握に潜むバイアスに目を向け、広く「働くこと」の意味を考えてみます。

《 プログラム 》

1. 16:00～16:05 【学長挨拶】
原科 幸彦（千葉商科大学 学長）
2. 16:05～16:10 趣旨説明
3. 16:10～16:25 【第1報告】
「通過儀礼の一要素としての労働と経営
——江戸時代から大正時代における米沢の繊維業を対象に」
松下 幸生（千葉商科大学 商経学部 准教授）
4. 16:25～16:40 【第2報告】
「ワークライフ・バランスの労働観」
奥寺 葵（千葉商科大学 商経学部 教授）
5. 16:40～16:55 【第3報告】
「『慢就業』からみる中国若者の労働観と若者支援政策」
朱 珉（千葉商科大学 商経学部 教授）
6. 16:55～17:10 【第4報告】
「古代ギリシアの労働観——声なき人びとの労働の実態と労働観」
師尾 晶子（千葉商科大学 商経学部 教授）
7. 17:10～17:25 【第5報告】
「プロテスタンティズムの倫理と労働観の再編」
荒川 敏彦（千葉商科大学 商経学部 教授）
8. 17:25～17:40 質疑応答